

「防災専門教育アドバイザーキックオフミーティング」に出席しました(2013/7/11)

テーマ：防災教育，多賀城高校，防災系学科

7月11日（木），宮城県庁4階庁議室において，「防災専門教育アドバイザーキックオフミーティング」が開催されました。

このアドバイザーは，多賀城高校防災系学科設置における基本構想の策定等にあたり，専門的見地からの指導・助言を行うほか，公開研究授業，教育課程の検討，学科開設後の運営，教育活動，各種研修会の指導等で，それぞれ指導的な役割が期待されています。

宮城県知事から委嘱を受けたアドバイザーは9名で，災害科学国際研究所からは，人文社会科学の専門家として平川 新所長（人間・社会対応研究部門歴史資料保存研究分野），自然科学の専門家として今村文彦副所長（災害リスク研究部門津波工学研究分野），佐藤 健教授（情報管理・社会連携部門災害復興実践学分野），小野田泰明教授（情報管理・社会連携部門災害復興実践学分野兼務）の4名が出席しました。

研究所以外のアドバイザーには，防災教育の専門家として，片田敏孝教授（群馬大学），矢守克也教授（京都大学），渡邊正樹教授（東京学芸大学）が，また医療・福祉・心理の専門家として，石井 正教授（東北大学病院），堀毛裕子教授（東北学院大学）が委嘱を受けました。

ミーティングでは，宮城県における防災教育の取り組みや，多賀城高校防災系学科設置基本構想についての意見交換が活発に行われました。平川所長は，カリキュラム編成にあたって「文理融合」の重要性や，災害科学・防災に関する最先端の学習ができること等を踏まえた入学希望者にとって魅力的なキャッチフレーズの必要性等を指摘しました。ミーティングには，村井嘉浩宮城県知事も同席され，各アドバイザーの意見に真剣に耳を傾けていました。



文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）